



## 2 北海道開発局長表敬

10月23日、研修員9名が柿崎北海道開発局長を表敬訪問しました。柿崎局長から歓迎の挨拶をいただき、今回の研修で北海道の総合開発の仕組みや定山溪ダムをはじめとする地域開発の事例を学び、北海道の豊かな食も堪能いただきたいと伝え、研修員代表から歓迎への謝辞を受けました。



## 3 視察

研修生は定山溪ダムや苫小牧東部地域、ウポポイ等を視察しました。西藤豊平川ダム統合管理事務所長から定山溪ダムの仕組みや役割などの説明があり、その後樋本定山溪ダム管理支所長から説明とダムの内部の案内がありました。研修生は、自国の灌漑用ダムとは根本的に規模や機能が異なる定山溪ダムを興味深く視察し、地域開発における多目的ダムの有効性を学びました。

ウポポイでは、国立アイヌ民族博物館において展示の説明を受け、アイヌの刺繍やチセでの民族衣装を体験しました。



定山溪ダムでの講義及び視察



ウポポイ民族衣装で写真撮影

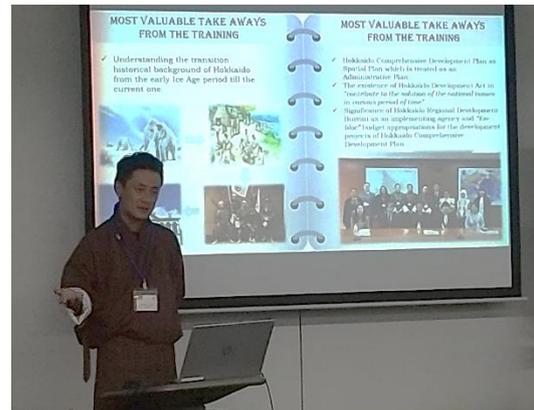
刺繍体験

#### 4 スタディレポート発表（各国の地域開発計画）

11月13日にはこれまでの研修の集大成としてスタディレポートを発表しました。

各国の研修生はそれぞれ自国の特徴や現状を踏まえた上で、自国で地域開発をするための具体的な計画や課題を取りまとめ、今後どのように課題を解決した上で計画を遂行していくのか発表していました。

各国の課題は、大都市圏への人口集中、計画の推進に当たっての各省や関係者との調整・協力、参加型計画プロセスの重要性や持続可能な成長の観点といった点で、私たちも各国の課題を通じて自国を見つめ直す良い機会となりました。



#### 5 閉講式

11月13日に無事閉講式を迎え、研修員全員が修了証書を受領。当局からは北村国際室長が、今回の研修で学んだことをそれぞれの国の地域特性に合わせて活かし、皆が幸せになるような地域開発を進めてほしいとエールと挨拶を行いました。

研修生からは自国に戻った後も、今回の研修で学んだことを生かして地域開発を進めたいとの強い決意が示されました。本研修員の帰国後の努力によって、素晴らしい地域の発展を実現できることを願っています。

